

伊深をめぐる路ポイントの説明

青木鯉二
戦争中、名古屋から疎開して、中町の青木家に住んでいた。この頃伊深で募集した盆踊り歌に応募したものが「伊深音頭」で、作曲され、手振りも付けられて、村民に踊られるようになった。

井上太十郎顕徳碑
明治～大正～昭和にかけての 18 年間の村長在任中に、道路の整備、灌漑用水の整備、伊深村役場（現自治会館）建設、小学校の増築等、様々な事業を行った。その功績を称えるために、昭和 24 年村民有志の手により建立された。

岩観音
下大洞の岩の穴に観音様が祀られている。この穴は牛牧の岩窟に通じているといわれている。

岩山の絶景
水墨画に描かれるような見事な岩山の景色である。春には山桜やひかげつつじが咲く。大雨の後には、山頂から流れ落ちる幻の滝が見られる。

牛牧の桜並木
40 年前くらいに植えられ、その後も 2 ～ 3 回に渡って、少しずつ植えられて約 80 本のソメイヨシノの桜並木である。

お諏訪様のじょりぬぎ場
神社には、必ず昔は西 100 メートル程の所に「じょりぬぎ場」と言われるものがあった。諏訪神社の場合は、井戸があって、神様が乗ってきた馬がそこにはまってけがをしたので、その後はこの神社の氏子の部落には、よい井戸がないという伝えがあった。

追洞（おっぽら）の池
井上太十郎が自分の田を提供して造った灌漑用水。

記念碑
正眼寺の参道脇に、4 基の記念碑がある。そのうちの 2 基は伊深義民の慰霊の「南無阿弥陀仏」碑で、あとの 2 基の「白露戦役記念碑」は、戦死者 5 名、病死者 1 名と出征兵 23 名の名が記してあり明治 40 年に建てられた。「賛労萬世」碑は第 2 次世界大戦の戦死者 45 名の慰霊碑で、昭和 26 年に建てられた。

小林家
旅館として建てられ、その後うどん屋も営まれた。西側の建物でうどん製造や米搗きが行われていた。その後、小林家が買い取った。

桜井家
伊深の領主佐藤家の代官であった小田島家の家来。幕末に旗本領伊深村の目代として村に住む。住宅は大正 5 年～8 年にかけて建てられたもの。

自治会館
伊深村役場として建設された。昭和初期の建築物として残っている希少なもの。

正眼寺
無相大師関山慧玄（正眼寺の開山）は 1277（建治 3 年）年長野県（現中野市）生まれ。幼くして出家し、50 才を過ぎ京都紫野の大燈国師のもとで修行、ついに大悟徹底して法を嗣ぐ。しかし、まもなく悟後の修行を志し、京都を離れ旅に出る。たどり着き、このこと定めたのが伊深の里であった。
村人の百姓仕事を手伝い、時に頼まれると、関のまちへ牛を引いて村人の使いなどをして、里に溶け込んでいた。しかし、夜になると所々の岩山に登ってそこに坐禅を組み修行に励んだといわれる。
伊深に住むことおよそ 9 年。ある日京都より勅使甘露寺藤長が時の花園法皇の命を受け、慧玄を捜し歩いていたが、伊深の里にいることを風の便りに知り、ついに到って、ある大岩（勅使岩）に登れば、向いの山の頂きに坐禅をしている慧玄の姿があった。（座禅岩）。

これは、師の大燈国師が亡くなられる時、花園法皇が「これからは誰を師としたらよいか」と尋ねられ、「慧玄を」と遺言されたので、先の勅使藤長が捜しに来たのであった。師の遺言ならばと、やむなく伊深の里を離れ、慧玄は京へ向かうことになる。この時、伊深の里人は別れを惜しんでどこまでもついてゆくというので「おきゃれ、おきゃれ」と言われた（おきゃれ縄手）。
それならば、関まではと里人が言えば「ここが関や、関也（地名）」と言われた。慣れ親しんだ牛も別れを惜しみ、伊深橋のたもとで涙を流したので、川沿いに生えていた笹の葉先（牛の涙笹）が枯れたといわれ、今でもそのような笹が自生している。

無相大師関山慧玄は、後に妙心寺の開山となり 1360（延文 5 年）年 12 月 12 日に没した。正眼寺では毎年 10 月 12 日に開山忌を行う。
江戸に入って 1669（寛文 9 年）年、法孫の大極禅師が、伊深の地に関山の祖跡として、初祖山円成寺を創建したが、この年、妙法山正眼寺と改めた。後に妙心寺の奥の院と呼ばれるようになる正眼寺は、1847（弘化 4 年）年雪潭禅師によって修行道場となった。妙心寺派においては「伊深」と言えば正眼寺と言われるほどになり、全国から集まる若い修行僧が厳しい修行に励む修行寺なのである。本堂裏開山堂には開山無相大師の座像があり、朝夕供物を供え、お祀りされている。
また、春は本堂の前のしだれ桜（昭和 46 年美濃加茂市指定天然記念物）が、秋には参道の放生池辺りの紅葉が美しい。

禅徳寺
正眼寺のじょりぬぎ場。開祖、開山慧玄師が、修行のため伊深に住みついた折に持っていた笈と持仏三体（釈迦、文殊、普賢）経文が残されている。

天王用水と取り入れ口
川浦川より水を取り、水路延長約 550m、幅 2.7 m、灌漑面積約 65ha に及ぶ灌漑用水で、農具や暮らしの道具、野菜などを洗う生活用水でもある。
この用水の取り入れ口のトンネル工事は、明治 22 年、伊深村の柴田長七が、独力で施工した。長さ 23m、幅 80cm、高さ 70cm のトンネルである。

道標・碑群
道標二基には、正眼寺、つぼ（津保）とかぶち（神測）の地名が刻まれている。石仏は三体。

中切弘法堂
明治初期の神仏分離までは、星宮神社の西に真言宗の長溪山宝生寺というお寺があった。中切弘法堂（観音寺ともいう）はその寺の一部であつたらしい。
開祖良海法印他を祀る宝篋印塔と石仏大日如来坐像。山中に僧侶の墓が今も残っている。
良海忌は 3 月 12 日。春秋の彼岸及び冬至に集まってお参りする日になっている。
長溪山宝生寺は、関市新長谷寺の末寺で真言宗。明治の神仏分離により廃寺となったが、観音堂（弘法堂）のみが今も残っている。

新谷（にたに）の池
井上太十郎が村長の時代に、伊深沖の田に水を引くための灌漑用水として、村人を説得して作った池。

村井長門守の墓
前京二條諸司代太閤秀吉家臣村井長門守源貞勝 天正四年子六月二日村井伊左衛門元祖

龍宮の淵
龍宮の淵を覗くと、オトヒメサマの足跡が見られるという言い伝えがある。昔、お椀などを貸してほしい人がここでお願いするとあくる朝揃っていた。ある時、借りたお椀を返した若者が、竹やぶに隠れていて、乙姫様を見てしまったので、それ以来、お椀を貸して貰えなくなったという話も伝わっている。

龍安寺
山門に鐘が吊り下げられている寺として知られる。鐘はおよそ 600 年前の作。鐘楼門は昭和 35 年 3 月美濃加茂市有形文化財指定。鴻鐘は昭和 37 年 10 月岐阜県文化財指定。

六部の墓「天神小僧」
別所の小洞（墓地）内に祀ってある。六部とは六十六部の略で、全国の霊場六十六か所へ法華経を 1 巻ずつ納めて回る行脚僧のこと。この地で亡くなった僧を丁寧（にんねい）に祀った。